

第19回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第19回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2021（令和3年）年3月8日（木）15時00分～17時00分

場 所：オンライン開催

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

尾崎 裕、石井淳蔵、川上智子、八木一法、吉井満隆、蔭山秀一、
研究科教員

南 知恵子、清水泰洋、森 直哉、宮原泰之、各務和彦、黄 磷、音川和久

最初に、清水副研究科長から、2020年2月から影響を及ぼし始めた新型コロナウイルスの対応について、時間的猶予の無い中、遠隔授業で開講するために様々な準備を進め開講した経緯について説明があった。また、宮原入試・学生委員からコロナ禍における学部・研究科の入試に関する対応について説明した。

次に、各務学部教務委員から2018年度以降の学部入学生を対象に開講を始めたデータ・サイエンス教育のカリキュラム説明と本学が文科省の「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開」の特定分野協力校として実施する「社会科学系学部の強みを生かした数理・データサイエンスモデルカリキュラムの開発と普及」の取り組みについて説明があった。

次に、森MBA教務委員からコロナ禍におけるMBAの取り組みとして、授業の開講方法、入試、年間行事の実施方法の説明があった。また、金曜日の夜に授業を実施していた梅田教室について、遠隔授業への移行に伴い同教室を廃止したことの報告があった。

次に、黄プログラムディレクターからグローバル教育プログラム～SESAMI（戦略的共創経営）～について、プログラムの概要説明があり、コロナ禍で入国できない招へい講師と留学生のために、早い段階ですべての授業を遠隔授業へ切り替え従来の授業科目の体系の継続を実現したことの報告があった。また、神戸大学のグローバル教育に関するイメージ戦略の一環で、SESAMIプログラムのプロモーションに力を入れるため動画を制作中で4月に公開予定であることの報告があった。

次に、南研究科長から、経営学研究科の課題として、国立大学における予算配分ルールと制約、共通指標により異分野で一律に評価が行われることの弊害、社会科学系の社会的貢献や研究成果が可視化しづらい点等について説明があった。また、

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関してアドバイザー・ボード委員から、対面授業から遠隔授業へ移行したことによる成果と改善策の検討、総合大学における社会科学系のプレゼンスの向上や異分野との連携強化、オンラインの強化、研究強化のための施策の検討、データサイエンス・AIに関する人材育成、産官との連携推進等多岐にわたるアドバイスやコメントがあり、出席者による活発な意見交換が行われた。